

調査山岳の生息状況について

1. 概要

環境省で調査を実施した山岳の生息状況について整理するもの。

2. 内容

(1) 中央アルプス

中央アルプスにおけるなわばり調査は、北部地域（宝剣岳以北）、中部地域（極楽平～熊沢岳）、南部地域（東川岳～越百山）にわけて調査を実施している。いくつかのデータは資料 1 - 1 において示しているため、ここでは補足的な情報を記す。北部地域で推定されたなわばり数は計 51 であった。中南部地域で推定されたなわばり数は計 36 であったため、合計 87 のなわばりが推定された。また、繁殖個体数について、足環なし未発見個体数も加味して補正した推定値では、北部地域が 100 羽、中南部地域が 98 羽で合計 198 羽が繁殖個体数であると推定した。繁殖個体の 10 月までの生存率は雄が 78.8%、雌が 73.3%となった。

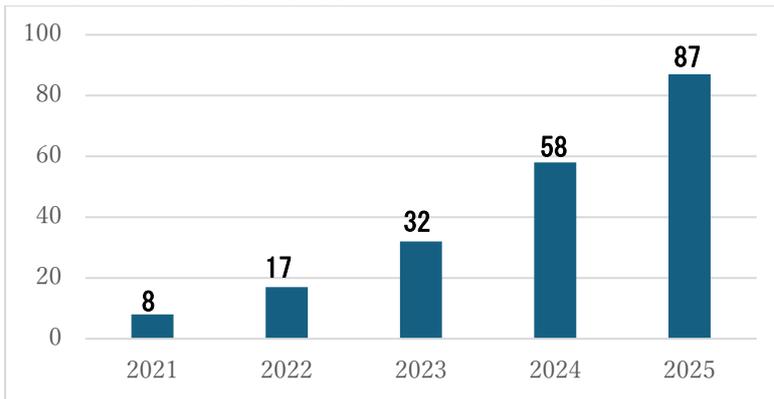


図 1 中央アルプスにおけるなわばり数の変化

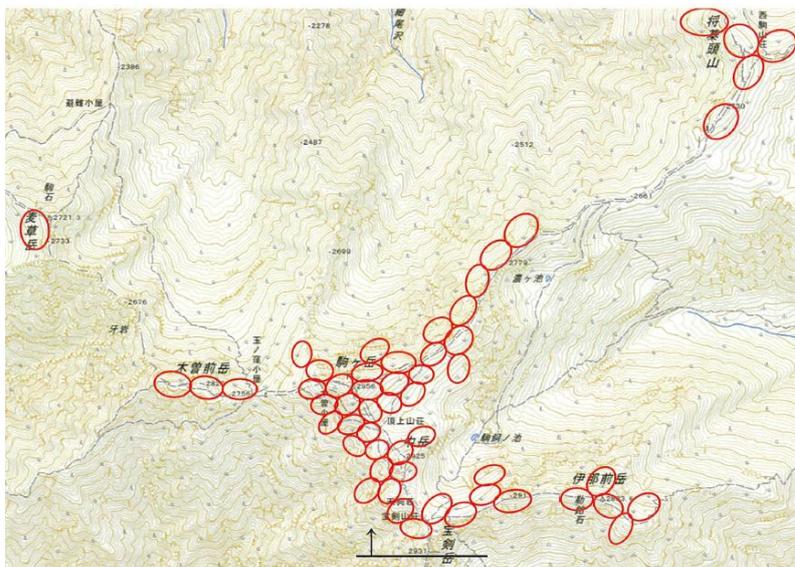


図 2 北部地域のなわばり分布



図 3 中南部地域のなわばり分布

北部地域で生まれた雛の10月までの生存状況については、2021年から2024年のケージ保護をしなかった雛の生存状況と比較すると、孵化後一ヶ月間の生存状況が非常に良かった。これについては、梅雨明けが早かったためと考えられる。

2025年10月時点での中央アルプスに生息する個体数については、当年生まれの雛に足環を装着した数が125羽で、標識できなかつた数が25羽程度と推測されており、成鳥の10月時点の生息数と推定した151羽と合わせて、合計300羽ほどが生息していると推定される。

○調査中の死亡事故の発生

10月22日の中央アルプス南駒ヶ岳での調査中に足環未装着を含む5羽以上の群れを発見し、順次捕獲作業を行い3羽を捕獲したところ、捕獲した若鳥雄1個体が保管中に死亡する事故が発生した。死因は不明であったが個体の体力が消耗していた可能性があり、今後複数羽捕獲時は、作業を分担し、捕獲後の保管時間を短縮するなどの体制をとることとする。

(2) 乗鞍岳

乗鞍岳では平成13(2001)年から長年にわたり標識による個体群調査が実施されてきている。令和7(2025)年は、剣ヶ峰の西側権現池周りの地域と四ツ岳を除く乗鞍岳の高山帯一帯の調査を行い、確認されたなわばり数は合計33であった。前年の令和6(2024)年に確認された42のなわばりのうち、今年の調査範囲内では37のなわばりがあったため、この範囲では前年から4なわばりが減少したことになる。そのため、なわばり数は過去最少であった可能性が高い。8月の雛の確認調査は2日間とも晴天のため、4家族しか発見できず、また雛数も2羽程度と、家族の数及び雛数ともに少ない印象となった。

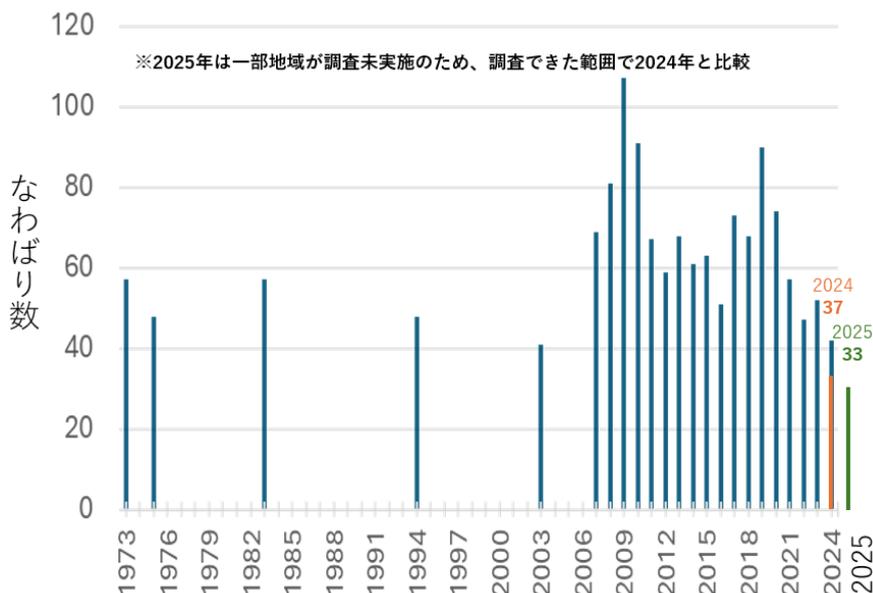


図4 乗鞍岳におけるなわばり数の変化

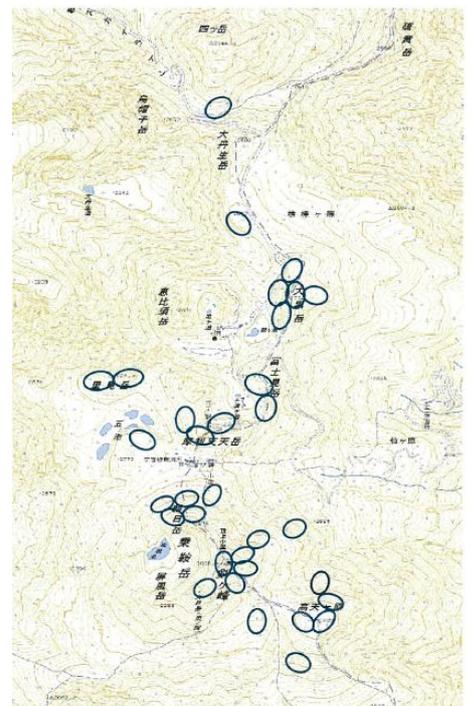


図5 乗鞍岳における推定なわばり分布

(3) 南アルプス

南アルプス白根三山地域におけるライチョウのなわばり数は、令和7年度は24となった。ただし、調査者が変わり、調査方法、調査努力量及び調査範囲が令和6年度と多少異なるため今年度のなわばり数はまずは参考値として扱い、令和8年度以降、引き続き調査を続け補正していく。依然として白根三山地域の特に北岳周辺は生息状況が回復していないことは変わらない。仙丈ヶ岳では10年以上生息状況調査を実施しており、同様の調査を実施した。合計8なわばりを確認し、前年よりも2なわばり少なかった。2014年から毎年行われている仙丈ヶ岳の調査結果からは、なわばり数が10前後で比較的安定していたものが、やや減少傾向であることがわかる。10月の雛の生存状況調査では、成鳥10羽雛8羽を確認した。

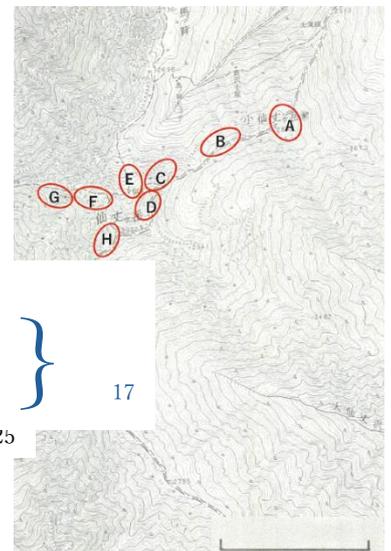
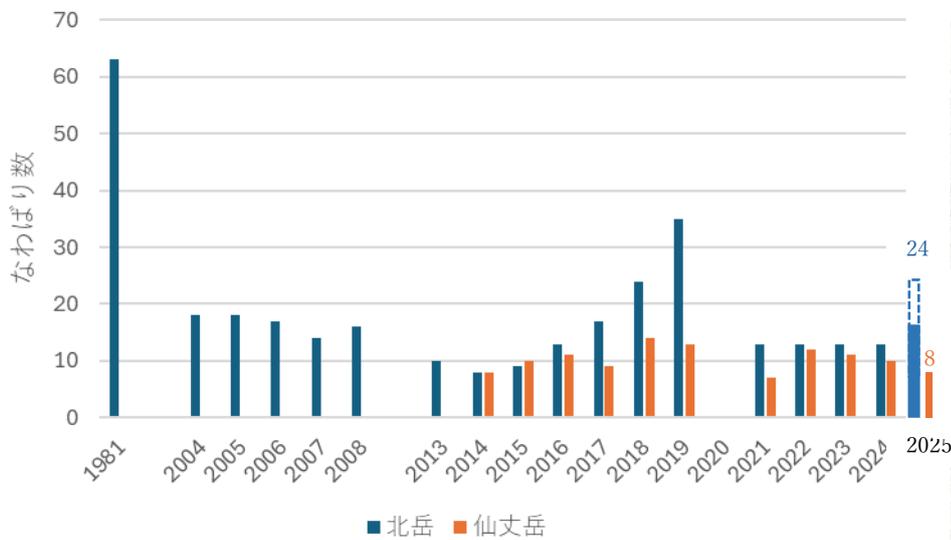


図6 北岳周辺及び仙丈ヶ岳におけるなわばり数の変化

図7 仙丈ヶ岳におけるなわばり分布

※2024年に実施していない山ノ岳以南のなわばり及び推定なわばりを除くと17となる。

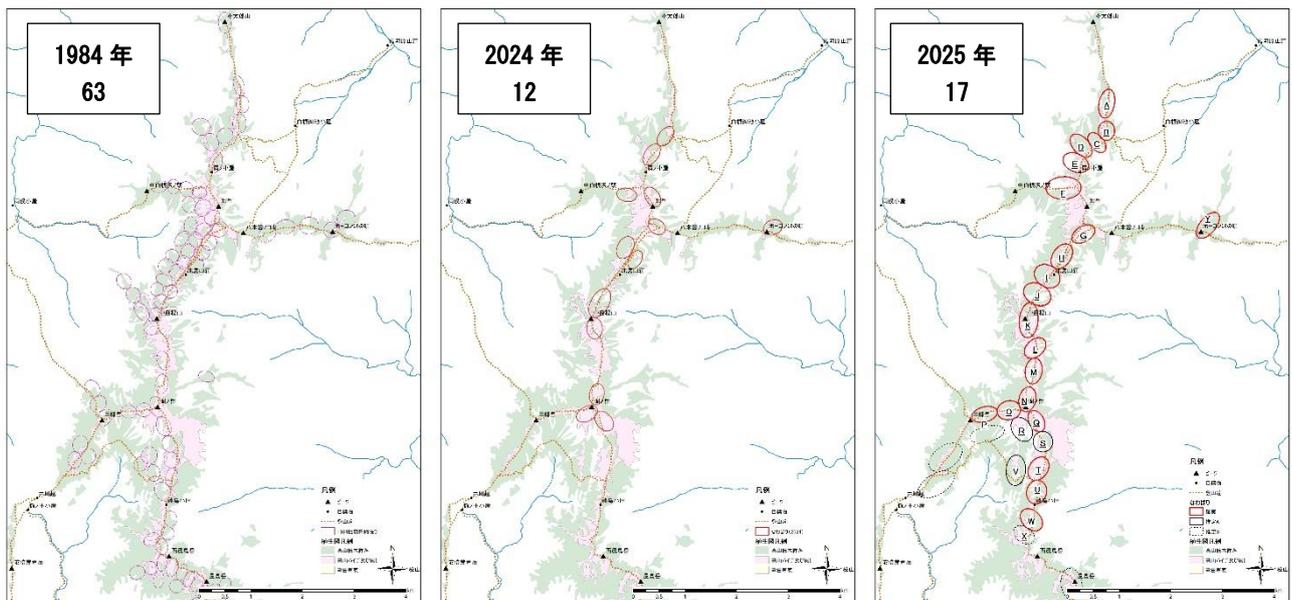


図8 白根三山周辺におけるなわばり分布

(4) 火打山

令和7年のなわばり分布調査結果を示す。なわばり数は3であり、昨年に引き続き過去最少となっている。火打山における雛の生存状況については、8月の調査で雌親2羽と雛5羽の群れのみを確認している。10月の調査においては、雌雄と雛2羽、雄と雛3羽、雌雄と雛1羽の群れを確認しており、雛が独立する時期でもあるので、8月に確認された5羽のヒナが、それぞれ別の群れで観察された可能性と、3羽のヒナが同じ日に別の群れで観察された可能性がある。そのため、2025年は1家族が繁殖に成功し、3羽から5羽が無事育ったと考えられる。

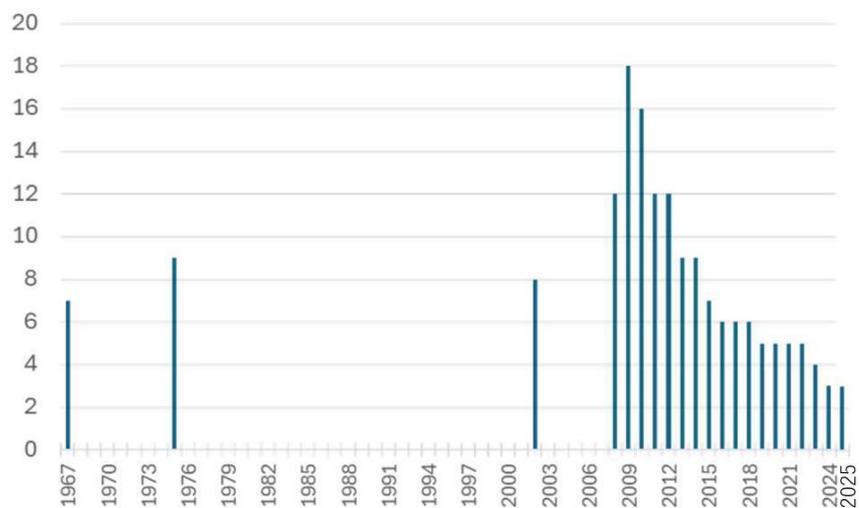


図9 火打山におけるなわばり数の変化

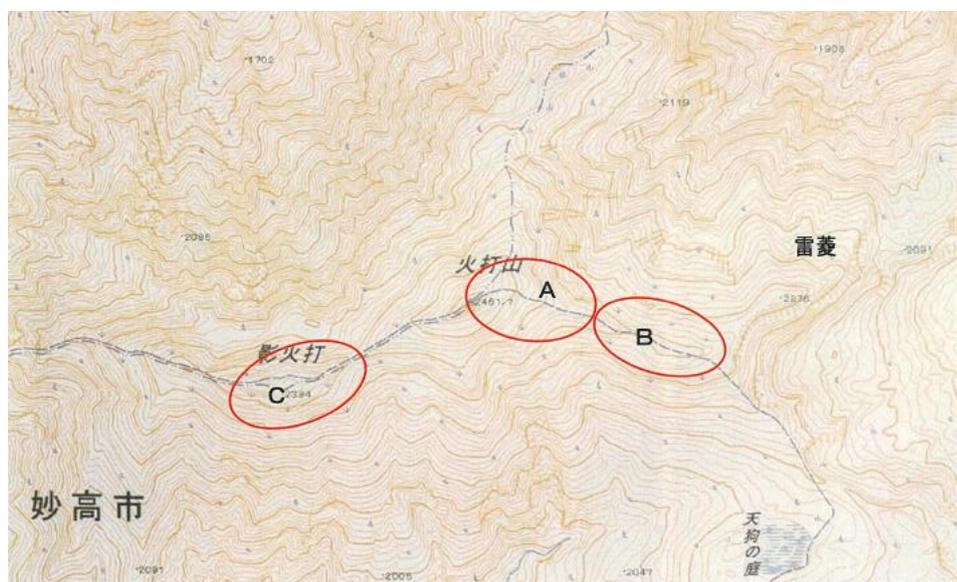


図10 令和7(2025)年火打山のなわばり分布